

平成29年第2回北海道議会定例会〔一般質問〕開催状況

開催年月日 平成29年 6月27日(火)
 質問者 民進党・道民連合 広田まゆみ 委員
 答弁者 知事、水産林務部長

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>四 「森のようちえん」を含む自然教育の制度化と外遊びを保障する幼児教育の推進について</p> <p>(一) 「森のようちえん」の重要性や全国的な情勢についての知事の認識について</p> <p>まず、「森のようちえん」の重要性や「森のようちえん」を取り巻く全国的な情勢についての知事の認識を伺いますが、現在、北海道においては、上川管内を中心に鷹栖町や、中富良野町において、「森のようちえん」として、森などの屋外で子どもたちの遊びや体験を重視した自主保育が行われ、東川町や下川町でもNPOなどが、幼稚園や学校と共同で森林環境教育などを行っています。</p> <p>また、認可園としては、当初は自然体験型特認幼稚園としてスタートした現在の札幌市のトモエ幼稚園や、恵庭市のリズム学園が、「森のようちえん」とは名乗ってはいませんが、自然体験を重視する幼稚園として、全国的にも有名です。</p> <p>平成27年6月ですが、12県の知事が結成した「日本創生のための将来世代応援知事同盟」は、若い世代が地方で暮らし、結婚・出産・子育てできる社会の実現を最重要課題と位置づけ、迅速に取り組むべき事項の1つとして『森のようちえん』について、内閣府に対し、緊急提言を行っています。その提言は、「自然体験活動を基軸にした『森のようちえん』は、都市部にはない、自然豊かな地域の特色を活かした生きる力を育む子育て支援として、多様な保育と地域の活性化につながるものであり、保育所や幼稚園などと同様の支援が受けられるよう制度の構築、または、見直しを行うこと」というものです。</p> <p>また、平成28年3月段階ですが、国土緑化推進機構の調査では、7県が「森のようちえん」等に、すでに何らかの支援策を講じており、6県が創設、拡充を検討中、14県が関心ありとされています。</p> <p>こうした全国的に推進されている森のようちえんへの支援や制度化の動きを、木育発祥の地であり、雄大な自然環境に恵まれている北海道の知事として、どのように受け止められるのか所見を伺うとともに、「森のようちえん」の重要性についてどのように認識されるのか、伺います。</p> <p>(二) 木育に関する連携促進会議について</p> <p>次に、木育に関する連携促進会議について伺います。</p> <p>昨年、七飯町で「森のようちえん」の全国フォーラムが開催されました。全国の先進事例などが紹介される中、北海道の特長として、協働</p>	<p>○高橋知事</p> <p>「森のようちえん」についてであります。道では、森林や木材にふれ親しみ、道民の豊かな心を育む木育の推進を森林づくり基本計画に位置づけ、施策を推進をしているところであります。</p> <p>こうした中で、長野県や鳥取県では、自然保育に関する研修会の開催や野外保育を行う幼稚園に支援するなど、自然体験活動を通じた幼児教育を進める「森のようちえん」の取組が行われていると承知をいたしているところであり、道といたしましては、木育の推進は、道民の森林づくりに対する理解の醸成はもとより、「森のようちえん」の取組にもつながるものと考えてるものであります。</p> <p>○幡宮部長</p> <p>森のようちえんに関し、木育に関する連携促進会議などについてであります。道では、学校教育などにおいて木育を進めるため、道教委と連携して、平成28年度に本庁と振興局毎に連携促進会議を設置し、木育の周知拡大に向けて、教職員</p>

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>型が注目されました。既存の認可園や、学校などが、自然体験の専門知識や経験のある自然学校やNPOなど、外部講師に協力を依頼して、定期的に子どもたちの森での活動を保障している事例などであり、全国的にはあまり例がないということでした。北海道において、地道に取組を進めてきた木育の成果の1つと受け止めたところですが、にもかかわらず、北海道における木育の推進体制の現状や、木育の目指すべき姿に関して、私としては、まだまだ不十分であると考えます。これまで2年間、水産林務委員会においても議論を重ねてきたところであります。</p> <p>一昨年10月策定された北海道総合教育大綱を見ると、「子どもたちの思いやりの心を育成するために、子どもの頃から木を身近に使っていくことを通じて、人や木や森とのかかわりを主体的に考え、豊かな心を育む木育を推進する」ことが、一文ではありますが、書き込まれました。</p> <p>これによって、これまで以上に、教育関係機関と知事部局の連携を強化する連携方針が定められたことは一歩前進であると考えます。この連携は、現状としては、いわゆる学齢期を主眼とし、学校現場の教職員を対象としての取組であることは承知をしていますが、これまでの連携促進会議の取組実績を伺うとともに、道としていわゆる「森のようちえん」に対する支援の実績があれば、あわせて伺います。</p> <p>また、この枠組みを、今度は、学齢前の幼児教育、「森のようちえん」の支援や、外部講師の導入などについても広げていくなど、木育の推進体制を強化していく考えはないのか、知事の所見をうかがいます。</p>	<p>との情報交換を行うとともに本年3月には、林業と教育の関係者による木育フォーラムを開催したところであります。</p> <p>また、これまで、農業高校の生徒が行う幼稚園児を対象とした木育教室や、保育士を対象とした木育研修などに支援を行ってきたところであります。</p> <p>道といたしましては、今年度、渡島、上川、釧路管内などにおいて教職員を対象とした木育研修を行うほか、今後、「森のようちえん」においても指導的な役割を果たす木育マイスターの育成を図るなど、連携促進会議を活用した取組を進めてまいります。</p>